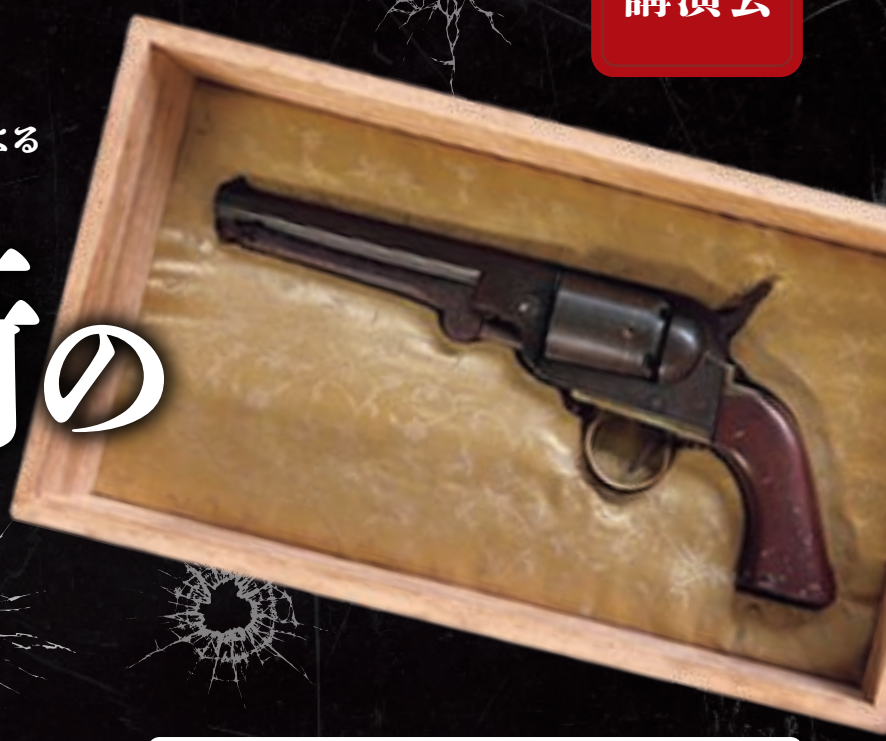
講演会

令和8年度 第1回 村民教養講座

なんでも鑑定団 鑑定士 澤田 平先生による
「和製コルト1851ネイビー」のおはなし

重兵衛の短銃（ピストル）



桜田門外の変（1860）の6年前、ペリーは2度目の来航の際に「コルト1851ネイビー」というピストルを幕府に献呈していた。

千葉の加瀬家「中居屋の番頭だった祖父の遺品。重兵衛さんはこれと同じ物を、桜田義士に提供したと聞いている」といい渡された五連発の和製コルト。

「今に江戸から…」

昨年秋、嬬恋郷土資料館では、「和製コルト」と呼ばれる短銃を受贈しました。その銃は、ペリーによって日本にもたらされた銃を国内で模倣して製造されたといわれています。地元嬬恋の三原出身で横浜開港の功労者として知られる中居屋重兵衛が、桜田門外の変の際、「これと同じもので…」と言い残したと伝えられています。今回の教養講座では、古式銃研究家・「なんでも鑑定団」鑑定士の澤田平先生からこの短銃にまつわる貴重なお話をうかがうことにします。皆さんの参加をお待ちしています。

講演

澤田（さわだ） 平（たいら）先生

なんでも鑑定団
鑑定士

- 堺鉄砲研究会主宰
- 甲冑・古式銃、和時計、からくり細工等に精通

対談

中居屋重兵衛のピストルをめぐって

澤田 平先生 × 安齋英哉氏（中居屋重兵衛顕彰会副会長） × 山口通喜氏（中之条町歴史と民俗の博物館ミュゼ館長）

進行 関 俊明

日時 令和8年5/30（土） 午後1時30分～

※講演会に申込みされた方は、当日午前に限り嬬恋郷土資料館を入館無料といたします。窓口でお申し出ください。

入場無料

主催 嬬恋村教育委員会 嬬恋郷土資料館

後援 中居屋重兵衛顕彰会・浅間山ジオパーク推進協議会

会場 サーラ嬬恋（旧嬬恋会館）大ホール（群馬県吾妻郡嬬恋村大字三原691）

定員 150名

申込・問合せ 電話か窓口 嬬恋郷土資料館（0279-97-3405 水曜休館）

二次元コードからお申込みの方はこちらから

和製コルト1851ネイビー／
5連発、口径9㎜、全長285㎜

井伊大老殺害説に新史実

井伊大老殺害説に新史実

水戸浪士は外国製五連発

毎日新聞昭和28年7月28日
提供：安齋英哉氏

文久元年田草月（五月）、東国ノ商人十兵衛ナルモノ楠公所ヲ掃除シ、香花ヲ供ヘ、昌ツ読経回向料御墓所掃除料トシテ金壱封ラ寄進法施シタル段奇特ノ至り也。

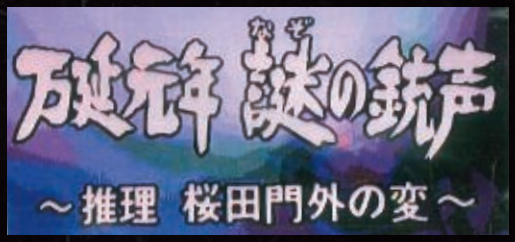
おそらく上洛した折に湊川まで足を伸ばしたものであろう。東国の商人十兵衛が中居屋重兵衛であるかどうか疑問もあるが、おそらく前後の事情から考えてそうと推測せざるを得ない。千葉県匝瑳郡小川台の旧家村越清兵衛家は、上野の彰義隊が官軍を迎えて戦った明治元年の戊辰戦争のとき、江戸の牧野一家が避難してきたという伝承をもとに、重兵衛の子孫である安斎氏が小川台を訪ねたところ、村長の鈴木氏から「水戸の浪士は皆、中居屋重兵衛の息がかかっていたということを、少年時代に小川台の林丈右衛門という古老から聞かされた。この土地から横浜へ出て行って中居屋の世話になった人も多いと聞いているが、林家や加瀬家などもそうでした」という話をしたそうである。さらに、安斎氏は村越氏の子孫とともにその加瀬家を訪ねたところ、祖父の多郎左衛門は、横浜の中居屋の店に勤めていたが、重兵衛からもらった短銃が残っており、これと同じものが桜田門外の変のとき、重兵衛から水戸浪士に提供されたと話したそうである。

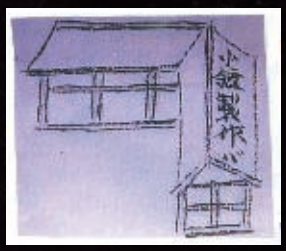
さらに林丈右衛門の子孫を訪ねたところ、岳父牧野善兵衛と中居撰之助の連名で、村越清兵衛に贈った、高野山の真言顕密曼荼羅二幅を見た。この曼荼羅の箱書には「高野山御什物真言顕密御曼荼羅、二幅対」とあり、箱の裏には「上箱弐重箱共表書松平肥後守御内佐瀬得所」「添章壱通、音蓮院御直弟猪瀬尚賢書」「万延元庚申仲秋、心願成就仍小川台村衆人為安全及自他平等為祈禱選者也」「東都六十二翁誠格堂敬日」とある。（中略）

この桜田門外の変を事前に知っていたことは、大正二年に嬬恋村の重兵衛の生家を訪れた小林七郎次が、万延元年三月三日、娘の初節句を祝っていた晩に、「今に江戸から吉報が来るぞ」と言っていたところ、そのとおり江戸から井伊大老暗殺の報せが入った話にもうかがわれるし、郷里の友人に宛てた手紙の一通に桜田門外の変を報じ、「愉快〻〻」と記し、終わりに「火中々々」とあったというのも、桜田門外の変に暗に関係していたことを物語っている。

このほかにも、今後中居屋重兵衛関係は、地方史の研究が進むとともに明らかになることと思うが、現在の時点では尊王倒幕運動のシンパとしての商人として、ここに推測で記すことができるだけである。また、それであるからこそ、今もって彼の最期が次章に述べるように大きな謎に包まれているのではないだろうか。

（萩原進 1994『新版 炎の生糸商 中居屋重兵衛』有隣堂より）





画像提供：澤田 平先生

関係年表

文政3年（1820）	3月	中居屋重兵衛、中居村に生まれる	
天保11年（1840）		重兵衛この頃蘭学を学ぶ	
嘉永3年（1850）			10月30日　高野長英自刃
嘉永6年（1853）	6月3日	ペリー来航	
嘉永7年（1854）	1月16日	琉球を経由してペリー再び浦賀に来航【コルト献呈】	
	3月3日	日米和親条約（神奈川条約）締結	
		重兵衛この年、日本橋に店を構える	6月15日　安政伊賀地震
			11月4日　安政東海地震
			11月5日　安政南海地震。東海地震の32時間後に発生
	嘉永7年11月27日安政に改元		
安政2年（1855）		重兵衛『砲薬新書』を出版	10月22日　安政江戸地震
安政5年（1858）	6月19日	日米修好通商条約締結	5月　長崎からコレラ広まる
安政6年（1859）	6月2日	横浜開港	
	6月19日	中居屋店開き	
	10月8日	「5割以上の生糸を中居屋が扱う」三井横浜店手代の手紙	
	11月	中居屋、幕府から営業停止命令	
安政7年（1860）	3月3日	桜田門外の変	遣米使節、小栗・勝・福沢1月18日～
万延（1860-61）	安政7年3月18日改元、万延2年2月19日文久に改元。		
文久元年（1861）	8月2日	重兵衛死去	